



【人生の苦しみを祝福に変える原則】

聖書の箇所： 歴代誌第一4章9節—10節(旧約聖書)/暗唱聖句：歴代誌第一4章10節

説教者：鄭南哲牧師

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん。一週間の間もお元気でしたか。ちょっとあたたかくなっていますが、まだまだ寒さが続いています。最近の気温差がかなりある今ごろ、みなさんの体も心も信仰もキリストの与える平安によって守られますようにお祈り申し上げます。

今日は旧約の歴代誌第一に出ているヤベツという方のお話を通してみなさんとともに神様の恵みを分かち合いたいと思います。旧約の歴代誌のところははじめは長たらしいかも知れませんが、1章から9章まではアダムからはじめ数千年たってイスラエルの帰還にいたるまでのイスラエルの系図が、ざっとならんでいてそれがおよそ600人以上の人たちがでてきます。4章にもみてください。ユダの子孫たちの名前がならべられています。44人の名前がずらりとならべられているところ突然短い話がぬっと表されます。ヤベツは彼の兄弟たちよりも重んじられた。彼の母は‘私が悲しみのうちにこの子を産んだから。’と言って、彼にヤベツという名をつけた。そのヤベツという人についての話です。

聖書でも一番読みづらい本、そしてそのなかでも一番読みにくい系図のなかに隠されているような人物に今日出会うことができます。イスラエルの系図を記録している著者がまるで“ちょっと待って。!どんなにこの系図を記録するこのことが大切であってもヤベツという人についてはかならず知っていただきたい。なぜなら彼はほかの人たちとは違ったからである。”と言っているようです。たしかな事実がイスラエルの系図においてヤベツを通して私たちに教えようとしている何かがあるということ。今日私と皆さんはヤベツについてのこの短い箇所を通してわずかに見えるようなことによってどんなに重んじられた祝福の結果をもたらすことができるがわかることとなります。

<苦しみの人ヤベツ>

しかし、実はヤベツは決して重んじられない人生の人でした。本文に戻って9節をどなたか読んでくださいますか。“彼の母は、‘私が悲しみのうちにこの子を産んだから。’”

みなさん! ヤベツの人生は事実生まれるときから苦しみと不幸の人生でした。

ヤベツという名前の意味を知っていますか。“彼は苦しみを呼び寄せる。”という意味です。つまり、“苦しめる者”という意味をもっているのです。もしかするとヤベツの誕生を回りからは喜んでくれなかったかも知れませんが、ヤベツの誕生がかえって家族たちに苦しいことだったようです。生まれなかった方がかえってよかったと思うほどであるならばヤベツは生まれるときから親から祝福されないまま育つなければならなかったかも知れませんが、人間にとってこれ以上ふかい傷と不幸があるでしょうか。

家庭がヤベツを育てないほど貧しかったかも知れませんが、もしかすると、母が強姦(ごうかん)されて生まれたのか詳しくはかかれていないので、わかりませんがヤベツはお金もなく、背景もなく、それに家族から愛されなかった不幸な者だったのです。

ヤベツは苦しみを呼び起こす人間だから、ぜったい近くに行っちゃたんだよ!不幸か、悲しいことをヤベツは伴われる者だから一緒にならない方がいいかもよ!と周りの人々にいろいろいじめられ、無視されてきたのでしょうか。彼は孤独だったと十分思われます。ヤベツにとって生まれる時から誰にも祝福されず、愛されなかったことは、どんなにしんどい傷だったのでしょうか。忘れようとしてもいつも自分の名前が呼ばれるたびにその苦しみとつらい傷がよみがえられたのではないのでしょうか。このような苦しみと傷だけで一生涯の人が重んじられる人生となり、神様の祝福をいただける人生になりますか。とても無理な話じゃないでしょうか。問題とか事故を起こしたり、他に人に被害をあげないことで満足すべきじゃなかったでしょうか。

しかし、決して苦しみの呪いから解放されなさそうだったヤベツの人生でしたか、神様はそんなヤベツを他の兄弟たちより重んじられるようにさせて下さいました。そして、神様はどんな人の人生より祝福に満たされた人生に作り変えて下さいました。

10節によると、神様は彼の願ったとおりにすべてを成し遂げてくださる祝福を与えて下さいました。

大いに豊かに祝福を与え、この世の経済的にも豊かな祝福である広い地境を、この世のどんな天災地変(てんさいちへん)らや災い

からも被害なくヤベツは守られる祝福を、何よりも人生の中で苦しむことがない素晴らしい祝福をヤベツは頂きました。どうやってですか。今日我々も知りたいポイントがそれじゃないでしょうか。どうやって！どうして、神様は傷だらけ、苦しみの中で生きて来たヤベツの人生の上にあんな祝福を与えたのでしょうか。

< 神様の祝福のみを切に慕い求めたヤベツ >

神様は苦しみだらけの人生だったヤベツを逆転し祝福された人生に作り変えていくために、ヤベツが神様の 祝福のみを切に、さらに懇切に慕い求めるように導きました。

10 節でヤベツは “イスラエルの神に呼ばわっていた。‘私を大いに祝福し、私の地境を広げてくださいますように。’”と求めました。日本語の聖書だと[大いに祝福して下さるように]と書かれていますが、ヘブル語の原語によると“祝福にさらなる祝福を”と二度繰り返すほど強調しています。

彼は ‘祝福に祝福を’ という、つまり、かならず、神様の祝福をいただきたいことを強調しながら祈っています。彼の一生涯どれだけ神様からの祝福を慕い求めていたのかがよくわかる表現です。彼の祈りの中で、彼は何よりも神様の恵みと祝福を切に求めています。

まるでモーセがシナイ山で神様に懇切に祈ったような祈りでした。“どうかあなたの栄光をわたしに見せてください(出 33:18)”。するとモーセに神様はこのように答えられました。

“主、主はあわれみ深く、なさけぶかい神、怒るのに遅く、恵みとまことに富み。”(出 34:6)

神様は恵み深い方で情け深い方なので、どんな資格もない私たちにさえも祝福してあげようとしている神であることをヤベツは知って、そして信じていたのです。我々もそれはみんな認めていると思います。例え、我々は民数記6章24-26節まではよく知っています。

『【主】があなたを祝福し、あなたを守られますように。【主】が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。【主】が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。』

我々もここまではみんな信じているかも知れないのですが、次が27節をよく忘れてしまう場合が結構あるかも知れません。

“彼らが私の名でイスラエル人のために祈るなら、わたしは彼らを祝福しよう。”(民数記6:27)

イエス様も“求めなさいそうすれば、与えられる”(マタイ 7:7)と約束されました。ヤコブは“あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。”(ヤコブ人への手紙4章2節)と言いました。つまり、そのような祝福を味わえないのはもう神様が下さらないのではなく、我々がヤベツのように懇切に、最優先に求めてないからだという意味なのです。

我々が信じている神様は今も我々に我々より満ち溢れる祝福を与えたいと望んでおられるお方です。我々の苦しい人生を作り変え私たちに恵みに満ちた人生、祝福の人生を願われていますが、“日々日々神様の恵みがなければとうてい生きることができません。神様私にぜひ神様からの祝福をお与えください。”と懇願してなかったからであることがわかります。

愛する信仰の家族のみなさん! 今の時間主の御前で忙しかった今までの自分自身の人生を振り返ってみましょう。信仰の生活において私たちはあまりにも神の恵み、祝福という言葉をよく聴きすぎてしまって、いつの間にかに、自分には自然にあるいは当たり前前に神の祝福がついて来るはず、べきだと錯覚しがちです。あるいは、いつも、なんでもありすぎるため、くれてもいいし、くれなくてもいい風に考えてしまう傾向はありませんか。自分たちの祈りのなかではただの呪文みたいになんの考えもなく神の祝福を言っているのではありませんか。

ヤベツは一番初めにしかも、懇切に神様がくださる祝福を求めました。神様による祝福の人生になるようにと 願いました。覚えてください。神様はいつくしみふかい方ですが、昨日の分の神様の祝福を求めてなかったならば、みなさんは昨日もらうべきの神の祝福をもらえず、逃してしまったことを覚えてください。

「あなたが本当に切に祈り求めるなら、私は祝福しよう！」これはまさにヤベツを通して我々に見せてくださる神様の約束なのです。

< 神様のために祝福を切に求めたヤベツ >

印象的なのはヤベツは神様の祝福をいただいてまた自分の地境がもっと広がるようにと祈っていることです。10節に“私の地境を広げてくださいますように”ここで、**地境**という言葉は浜辺(はまべ)、『境界(きょうかい)』という言葉にも訳す事ができます。それは自分が働ける、より広い空間をくださるよにという意味です。

ヤベツの当時イスラエルの国家的な状況は指導者ヨシュアのカナンの征服後十二部族に約束の地を分け与えるごろでした。ヤベツは当時土地が分配されることをみながら、ただ目にみえている土地だけに満足されなかったことがわかります。

ヤベツは神様をみあげながら、目にみえている土地だけではなく目にはみえないが自分の地境をも、ひろげてくださるよにと求めたのです。もし彼がただ自分のため目に見える土地と物質に執着しすぎてこのような祈りをささげたならば、神様は欲張っているヤベツの祈りには決して答えてくださらなかったと思います。

しかし彼のこの短い祈りの中にはそれ以上の意味が含まれています。つまり、“**神様、私が神様のためにもっとたくさんの働きができるように働き場を広げてください。**”と求めているのです。神様の祝福をいただいて、ただ自己中心的に、自分の腹ふくらみのために祝福を求めているわけではありません。神様の栄光のためにもっと影響を与え、さらにたくさんの働きができるよにと求めているのです。神様の導きと力によって自分が助けになれるところ、自分のたすけを必要としているところさえ広がるよにと求めている内容なのです。

まるで、有名なインドの宣教師だったウイリアムケリが一生祈った内容のように、“**偉大な神様のために偉大なことを成し遂げることができますよに偉大なことを求めます。大いにお与えて下さい。**”と祈った内容と一緒にです。

“**王なる神様、あなたの栄光のために私にたくさんの機会を与え、私があるあなたのためにもっとたくさんのことができますよに助けてください。**”

みなさんもこのような祈りをささげてみませんか、そしてヤベツのように神様のため私の地境を広げてくださるよに求めてみませんか。この祈りをささげるとき皆さんには本当に期待してもいいほど大いに用いられると信じます。皆さんの住んでいる周りでは影響力を与えるものとして用いられ、みなさんを必要としている人たちが近寄って来ると信じます。神様を喜ばす機会がさらに増えると信じます。おぼえましょう。偉大なる神様は私たち弱い者を通して、平凡な人たちを通して神様の偉大なみわざを成し遂げていくことを願われていることを覚えましょう。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん!私たちの人生は長くありません。短いこの人生の間、神様のためにと他人のために生きる機会ほどのぐらいあると思いますか。幼いごろはちいさすぎて助けられてきますが、年をとっていくと力がないため、かならず、だれかの助けをいただいて住まなければなりません。我々はそれぞれ人生を終えた後生きておられる神様の御前に立つことになり、その時、主はみんなに公平に与えて下さった一度の人生(生活、健康、自分のエネルギー、お金、時間など)をどのように使ったのか、神様のご栄光のためには与えて下さったすべてをいったいどのように使ったのか評価する時があると御言葉ではよく示して下さいます。

実際にこの世で、神の御国のために、神様を喜ばすために、主の体である教会のために私たちが仕え、働ける時間はそんなに長くありません。それにもかかわらず、イエスを信じたあとでさえ、無為(むい)に歳月を送る人々は数え切れません。なんの希望がないように、目的も失ったまま生きる人もいます。ただ日曜日になると教会に来るだけで満足しながら生きています。わずかなことにとらわれて、一生それだけを守ろうとしているうちに失望し、つまづいてしまいます。それは大変残念なことと言えますを得ないことなのです。

みなさん! 私たちが信じている偉大な神様をとっても小さいものにさせないように気をつけましょう。ヤベツのように偉大な神様がみなさんに与えようとしている夢、神様の夢とビジョンを抱きましょう。今の自分の思いよりもっとふかく、もっとたかく、もっと広く信仰をもって祈り求めましょう。神様のため我々も祝福され用いられるよに。

いつかみなさんにご紹介したことがあると思いますが、今日世界1位の大学はハーバード大学はキリスト教学校から始まっ

たところす。ハーバード大学の設立者ジョンハーバードという人ですが、彼はイギリスからアメリカに移住してきて、まず、“この荒野のような地に神様の真実な人たちを育つ学校を立てたい。”という強い夢をもって祈り始めたそうです。それでボストンのあるすみっこに学校を立てましたが、みずぼらしいそのものでした。その時、彼が持っていたのは自分の本 2 百冊と 7 百パウンド(今日 13 万 7 千円ぐらい)が全部でした。それだけではなくジョンハーバードはこのちいさい学校を立てた一年後に天に召されて行ってしまいました。そんな粗末(そまつ)な学校がこんにち世界一番の大学になれるなんてだれが想像したのでしょうか。!

しかし神様はジョンハーバードという一人の祈りの夢を用いられました。たった 7 百パウンド(今日 13 万 7 千円ぐらい)と本 200 冊からのスタートでしたが、偉大な神様には彼が抱いていた夢だけでも十分でした。彼の夢を通して今日世界を動かす人材を輩出(はいしゅつ)する最高の大学を造ってくださったのです。聖書は私たちに このように言われます。

“信仰は望んでいる事柄(ことがら)を保証し、目に見えないものを確信させるものです。”御言葉とおります。

みなさんは神様のためには何を求めているのでしょうか。

ヤベツは自分の不幸な環境に負けませんでした。ヤベツは確かに先祖たちを奴隷の生活から自由にしてくださり、強い敵からも守ってくださり、豊かな祝福の地に導き入れてくださった神様について聞きながら育ったと思います。そしていつかからはその神様を信じながら望みをいだいたでしょう。祝福と地境を広げてくださると同時にその後の神様のために働くために力ある神の御手が自分とともにしてくださってあらゆる艱難と苦しみから守ってくださるようとヤベツは切に祈り求めていたのです。

今のみなさんの欠点はなんですか。みなさんの弱い点はなんですか。環境がむずかしいですか。信仰は自分に負われている運命と苦しみをひっくり返す力です。限界を乗り越えさせます。ローマ人への手紙 8:35-39 節、どんな艱難も、苦しみも、迫害も飢えも、裸も、危険も剣でもキリストの愛から引き離すことはなにもなく、私たちが愛してくださった方によって圧倒的に勝利することができるかと記されています。

新約のマグダラマリアをみてください。彼女はこの世の不幸というものは全部負っているような女でした。親から捨てられ 体 を売る女で、七つの悪霊に追われた女でした。しかし彼女がイエスに出会い恵みを体験し、まことの救い主である神様を信じる信仰が与えられた後は、イエスキリストの復活を一番初めに目撃した女になりました。彼女は自分の運命を乗り越え、限界を乗り越えた女になったのです。

ヤベツは信仰をもってその神様の御業が自分を通して成し遂げられるためにこのことも求めました。一生涯御手が私とともにあり、わざわざから遠ざけて私が苦しむことのないようにしてくださいと。

メッセージを終わらせたいと思います。

私はヤベツの祈りが自分中心的ではないと思います。正当な祈りでした。なぜなら 10 節をみると神は彼の願ったことをかなえられたと書かれているからです。ヤベツの祈りがすばらしい理由は、彼はいつもこのように神に祈って与えられ、勝利をしたため尊敬された者になり、主のため仕え、神様に認めいれたのです。

愛するみなさん!わすれないでください。神様に正しく求めれば必ず、与えられます。私たちの人生は決して自分たちの信仰の以上、祈り以上にはなりません。信じて切にそれを求めた分だけ満たされます。祈りはその人の信仰を表し、その人の人生にその人がいったい何を目指して走っているかを表します。

世界を抱いて祈る人は世界的な人になり、日本をいだいて祈る人は日本をいだくほどの人になると信じます。今日も主は祈りを通して働きをすすめていきたがります。今かかえている問題がありますか。どんな苦しむことを抱いているのですか。神様の祝福をしたい求めていますか。祈ってください。祈りをとおして神の御手がみなさんのために働かれるようにしましょう。

ヤベツの祈りのようにならず神様によって逆転されます。神様に日々切に神様の祝福と恵みを慕い求めましょう。神様のために我らに機会と地境が広げて、いつも神様の助けの御手をたよってあらゆる艱難と苦しみを乗り越え、ついに神のご栄光のため、豊かに用いられた信仰の主人公たちとなりますように、そうなることを信じて祝福します。今週、今年もヤベツの祈りの奇跡と変化を体験されますように主の御名によって祈ります。アーメン。!